

10. 地域との連携

10-1 水と緑のネットワークづくり

佐賀市は、豊かな水系と恵まれた自然環境を活かして水・緑のネットワーク構想を進めている。この構想のもと多布施川、松原川などの水辺空間を景観整備しており、現在市民の憩いの場として親しまれている。また、水を媒介として地域を結びつける河川は、従来上流と下流の交流の場であり、地域の一体性の確保に大きく貢献するものであった。このことから、貴重な水面や水緑環境の保全と活用を図るとともに、河川の有する連続性を活かし、河川を中心としたネットワークを整備することにより、地域の人々が河川を中心にしてふれあいの交流ができる環境を創出していくことが重要となっている。さらに、河川やクリークが網の目状に発達している本市には全国の他都市に比べ、まだまだ様々な動植物が生息している。この恵まれた環境を保全し、次の世代に継承していくことが大切である。

佐賀平野には、特有の河川、水路網が縦横無数に存在しているが、今日の都市化の中で減少しつつある。この貴重な水に関わる資源を保全整備し、潤いのある場として活用するとともに、公園緑地や様々なアメニティ資源、並びに名所旧跡等の歴史的資源を結びつけ新しいネットワークの形成を図ることを目的とし、水と緑のネットワーク整備を図ることにより佐賀地域の活性化をめざしている。

〔水と緑のネットワークづくり 基本方針〕

○ 水・緑空間の整備

市内の水系を排水機能として捉えるだけでなく、周辺地域の用途やまち並みなど周辺環境との調和を図りながら、商業環境整備、生活環境整備など総合的な観点から良好な親水空間の創出・整備に努めます。

○ 水・緑の広域ネットワークの形成

かつて生活と密着していたという水辺の特性や河川の有する連続性を活かしながら、交流拠点としての水辺空間を整備するとともに、広域的な地域連携・連帯の推進、水緑空間を活用した地域振興を図るなど河川を中心とした広域ネットワークを形成します。

○ 水辺生態系の保全

全国に誇り得る恵まれた生態系を保全し、更に豊かなものにするため、公共事業を行う際には生物の生息環境に配慮し、特定区域では生物にやさしい工法（多自然型工法）による整備を行います。

○ 「トンボ王国さが」づくりの推進

暮らしの中に水と深い関わりをもち、水を大切にしてきた本市の歴史がトンボをはじめとする多種多様な生きものを今日まで育ててきたことを踏まえ、公共事業を行う際にはこうした豊かな自然に配慮するとともに自然環境保全意識を高めるための普及活動に努めます。また、本市に残された貴重な生きものを観察する場やふれあえる場の整備に努め、「トンボ王国さが」づくりを一層推進します。

10-2 河川利用の促進

嘉瀬川の中流域は河川敷が広く、水辺が安定しているのでレクリエーション活動に利用しやすい。人々にもっと親しまれるような活動を地域住民・市民団体と一体となって実施している。

■NPO「技術交流フォーラム」活動状況



←NPO「技術フォーラム」による活動
－嘉瀬川遣唐使船レース－

■河川敷を利用したさまざまなイベント



↑河川敷を利用したイベントの開催
－九州川のワークショップ－

↓佐賀水環境フェア



資料：武雄河川事務所